

平成 29 年度

第 1 回総合教育会議 会議要点録

日 時	平成 29 年 5 月 29 日（月）15 時 00 分から 16 時 25 分
場 所	大府市役所 5 階 委員会室 1
出 席 者	市長、教育長、永田教育委員、西村教育委員、竹中教育委員、河合教育委員
企画政策部	企画政策部長、企画政策課長、企画係長、企画係主事
教育委員会	教育部長、指導主事（3）、学校教育課長、学校教育係長、学校教育係主査、 学校施設係長、放課後係長
オブザーバー	副市長
公開の可否	公開
傍聴者数	0 人
議 題	(1) 部活動のあり方について (2) いじめ・不登校の対応について (3) 道德教育の状況について

開会

教育長 開会宣言及び議長は教育長が務める旨を述べる。

1 あいさつ

- 市長
- ・先日、市内で交通死亡事故が発生した。横断歩道を通行中の事故で、横断者優先運動を展開している最中でのことであり、大変残念である。
 - ・横断歩道を渡るときも過信しないよう、子ども達にも学校教育の中で指導して行ってほしい。
- 教育長
- ・文部科学省から次期学習指導要領の移行期間についての発表があった。
 - ・2020 年度から小学校で本格実施、2021 年度から中学校で本格実施される。
 - ・3・4 年生が英語活動で週 1 時間、5・6 年生が教科の英語として週 2 時間。
 - ・時間確保は総合の学習の時間を取り崩しての対応となり、週 70 時間のうち 15 時間を使用。今後、来年度の英語教育について検討していく。
 - ・道德は特別の教科として、来年度から小学校で、再来年度から中学校で実施される。評価をどう取り扱うか、市の道德教育という観点からどのように実施するかが課題。
 - ・今日は議事を 3 点用意したので積極的なご意見を賜りたい。

2 自己紹介

《名簿順に自己紹介》

3 協議・調整事項

(1) 部活動のあり方について

《事務局から内容について説明》

- 指導主事
- ・部活動は子どもたちの心身の健全な育成が大命題。
 - ・昨今は保護者の期待が過熱。
 - ・3月に、部活動の休養日の確保と朝練習について、4中学校の校長の合意のもと、学校と保護者宛に文書を発出した。
 - ・学校では活動の振り替えをポイント制にするなど、休養日の確保に努めている。
 - ・顧問の中には技術的に専門ではない先生もおり、学校からの希望に基づき市から外部指導者を派遣して技術的な部分を指導してもらっている。
- 教育長
- ・説明の中で質問があればお願いしたい。
- 永田委員
- ・指導者の派遣回数について各校にばらつきがある。振り分けはどのように行っているか。
- 指導主事
- ・年度当初に派遣を希望する部活動の調査を実施している。
 - ・回数は指導者からの申告に基づき支払っているもの。
- 永田委員
- ・大府南中学校は回数が多い。この差が順位に影響するのかと思ひ質問した。
- 市長
- ・予算を超えた部分はボランティアということだが、報償費枠からの対応についての整合性を聞かせてほしい。
 - ・先生の多忙化解消につながるならば予算化対応をしたい。子ども達にとっても、先生にとっても良い方法ならばご意見いただきたい。
- 指導主事
- ・1月支払分は一部を報償費枠からで対応し、この時点で予算が尽きたもの。
 - ・外部指導者は技術的な指導の部分ではありがたいが、問題が起きた時に外部指導者だけでは対応できない。顧問の先生による対応とする必要があるため、基本的には2名体制としている。
 - ・技術的な指導をしていただくだけでも、先生の精神的な負担軽減になる。
 - ・他県の例では、指導員として登録し、顧問の先生無しで対応している学校があると聞いた。調査したうえで、今後検討させていただきたい。
- 教育長
- ・文部科学省は市町対応で法的整備が整えば、単独で生徒の指導に当たってもよいと打ち出しているのが今後の課題となる。
- 永田委員
- ・大府中学校と大府南中学校の具体例がないが把握しているか。
- 指導主事
- ・具体例で示していないが、両校ともきちんとやっているかと報告を受けている。
- 永田委員
- ・部活動を減らすと聞いたPTAの方が驚いていた。
 - ・頑張ってやってほしいという保護者もいると聞いた。

- ・多忙化解消となればよいが、やる気のある先生もいると聞いたので、どうなのかと思う。
- 指導主事
- ・保護者や先生の中には、そのような考えの方もいるが、どこかで線を引かなければ過熱する一方である。また、多忙化解消につなげていきたいので、ご理解をいただけるとありがたい。
- 浅井委員
- ・私のところも中学生の子どもがいる。喘息を持っているが、少し運動をやって体を鍛えたいと思い、部活動の申請をする際にそのことを本人が書いていた。
 - ・部活を頑張りたい人と少し体力をつけるために運動部に参加したい人と両方いるので、難しいと思うがバランスを取りつつ、頑張りたい人には高度な指導ができるようにしてほしいと思う。
- 教育長
- ・公立学校の部活動としてどうあるべきかが3月に出した文書の基本だった。
 - ・部活動をどんどんやって優勝を目指したい生徒達、ゆっくりやって中学校生活を楽しみたい生徒達がいる中で、どこに基準を置くかをという選択で、今回の指示文書となった。
- 竹中委員
- 指導主事
- ・他市町との関係の中で、共通の理解や見解を統一する話は行われているか。
 - ・休養日の確保については、以前から家庭の日などは練習を無しにするという話は出ていたが、時が経ち過熱する中で薄れていった。知多管内である程度の合意は得ている。朝練習の制限については大府市独自である。
- 西村委員
- ・先生の業務多忙化解消で部活も問題となっているが、子ども達も今一度練習内容を見直し、短い時間の中で、効率よく強くなることを、子ども達が考えていくのもいいのではないかと思う。
- 河合委員
- ・今の時代、どこかで線を引く必要はあると思う。
 - ・教師の多忙化の中に部活動の問題がある。部活動を学校教育として何のためにやるのか、指導者も子ども達ももう一度確認して進んでいく必要がある。
 - ・校長会や教育委員会でルールを決めたので、学校も守らなければならない。
 - ・子どもが自主的にやる場を色々なところで確保していく方策をこれからは考えていく時代だと思う。
- 教育長
- ・学校の先生方の考え、学校管理職の思いはあるが、教育委員会としては、例外を作らず、このルールを徹底してほしいとお願いをした。

(2) いじめ・不登校の対応について

《事務局から内容について説明》

- 指導主事
- ・本市は、いじめの認知の比率は全国に比べて高い傾向にある。
 - ・小学校では、認知比率は高いが1校あたりの対応件数は少ない。中学校では、認知比率が高く、1校あたりの件数も高い状況にある。
 - ・具体的ないじめの様相は、小学校では、言葉で言われることをいじめと感じている子どもの率が高い。中学校では、仲間外れや集団による無視が全国と比

較して倍近い。

- ・小中学校で共通して、パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことを言われる、いわゆるSNS等によるトラブルが多くなっている。

- ・いじめに対する学校における日常の取り組みは、校内で共通理解をす、子ども達に考えさせる、スクールカウンセラー・養護教諭などを交えての教育相談体制の充実を図るなどである。

- ・不登校の状況については、不登校は30日以上欠席をした児童生徒をいうが、不登校の割合は全国と比較すると高いが、愛知県自体が全国の中でも高い。

- ・不登校に対する学校における日常の取り組みは、魅力ある学校、いじめや暴力行為等問題行動を許さない学校、子ども達の学習状況等に応じた指導や配慮ができるような学校づくりに努めるなどである。

- ・学校内に、相談室登校、別室登校、保健室登校などの体制を作っている。

- ・スクールカウンセラーなどとの連携協力や、レインボーハウス等の校外関係機関との連携にも努めている。

- ・学校外機関として大府市で設置しているレインボーハウスのスクールカウンセラーといじめ悩み事電話相談があり、スクールカウンセラーへの相談件数は増加しており、昨年度途中から人数を増やした。

- ・保護者からの相談や学校からの連携についての相談が増加しているのが実態。

- ・なかなか来られない保護者対象の、いじめ悩み事電話相談では、いじめや学校不適応・不登校に関する相談があり、小中学生の母親が多い。

- ・平成25年に国で『いじめ防止対策推進法』が制定され、国・地方公共団体・学校はいじめ防止基本方針を策定することとなり、策定が義務付けられた学校は策定済み。愛知県も策定済みであり、大府市としても策定していきたい。

- ・いじめ等による重大事態が発生した場合の対応についても基本方針の中で制定していきたい。

教育長

- ・いじめについて、認知件数の比率が高いということは、一概に問題があるとはいえず、学校がいじめの把握に努めているという見方もできている。

- ・いじめと自殺の問題が取りざたされている。青少年の死因のトップは自殺だと言われているが、原因のトップはいじめでは無く、家庭内の問題が一番。

- ・いじめとの関わりは、今日の学校の大きな課題となっている。

- ・ご意見があればお願いしたい。

浅井委員

- ・教育長と全く同じことを感じている。

- ・問題は重大事態を少なくするというのが一番基本だと思う。

- ・早期発見が基本。些細ないじめの件数が増えるのは、いじめの把握に努めている証拠である。

- ・いじめの発見が増えることは学校の不利益ではなく、小さいいじめも教育委員会へ報告しやすい環境にあれば、重大事態が少なくなるのではないかと。

- ・早期発見がしやすいシステムを作ってほしい。
- 教育長
- ・貴重な意見をいただいた。
- 河合委員
- ・いじめの問題は、大人の社会にもある。
 - ・いじめに対する考え方は、人間の尊厳を脅かす犯罪であるという意識が生徒も先生も弱いので、強く持つ必要がある。
 - ・いじめを起こさない学校、いじめを発生させないためにはどうするかにまで踏み込まないといけない。
 - ・早期発見・早期対応はもちろんだが、起こらないような学級・生じないような学校をどのように作るかということを先生方は悩んできた。
- 浅井委員
- ・一番問題なのは、いじめ手が、いじめをしているという意識を持っていない場合が多く、また、知識も無く、いじめには当たらないと勘違いしていること。
 - ・思い出したくない記憶を無理やり思い出させる言葉も差別発言になる。
 - ・相手が不快に思ったら、それはいじめだと自覚させることによって、冷やかしゃからかい、無視が少なくなるのではないかと思う。
- 教育長
- ・今年度中には、来年度から使われる道徳の教科書が採択され、いじめにかかわる領域は増えるとみている。
 - ・永田委員、河合委員、浅井委員から、現場の教員がどう子どもと関わっていくか、子どもが情報を提供してくる環境をどう作っていくか、そういう学級をどう作っていくか、依然として課題を抱えているというご指摘をいただいた。
 - ・その他、ご意見があればいただきたい。
- 永田委員
- ・自分がしていることで相手が嫌だなど思っていることをやってはいけないと、子どもにはいつも言っている。
 - ・大人の世界も同じだが、いじめについて注意をする大人や子どもがいない。
 - ・いじめについての認識をもつことが大切であると実感している。
- 市長
- ・大人の世界のセクハラやパワハラ・マタハラも同じで、どのようなことがいじめになるか、教育することが非常に重要。
 - ・パソコンや携帯電話などは非常に広範囲につながり、取り返しのつかないいじめにつながる。本市はICTを率先して導入しているので、こちらについての教育も、これからもしっかり行っていただきたい。
- 教育長
- ・ICT教育と連動して情報モラル教育を進めていく方向性を市は描いており、今後も力を入れていく。
 - ・その他いかがでしょうか。
- 竹中委員
- ・見えるいじめと見えないいじめがある。
 - ・見えないいじめが一番怖いのだが、いじめが原因で不登校になっていることが少しでも察知できれば、取り除くべき原因がある不登校なので、みんなで何とかすることができればよい。
 - ・一人一人の事柄に、具体的に動くしかないと感じる。

- ・重大事態のときは先生も非常に多忙化に追い込まれるので、その先生をフォローできれば、最悪の事態になる前に食い止められるのではないかと。
 - ・その場その場の緊張感を失わないことしか、防ぐ方法は無いと感じる。
- 西村委員
- ・子ども達が相談しやすくなって不登校が減らせるのであれば、スクールカウンセラーを増やしてほしい。
- 教育長
- ・3人から4人になって、延べ件数ではあるが相談件数が驚異的に増加した。
 - ・スクールカウンセラーの相談はその場限りではなく、継続して相談をしている。カウンセラーは、学校の担任に連絡をして、指導した内容を伝えて学校でもこうしてくださいと、かなり懇切丁寧に学校と連携している。
 - ・近隣ではこれだけの回数を行っているのは少なく、大事な存在である。
 - ・いじめ防止基本方針を、市として今年度中に条例として定めていく。

(3) 道徳教育の状況について

《事務局から内容について説明》

- 指導主事
- ・道徳教科化への大きな転機となったのは平成23年の滋賀県大津市のいじめ自殺事件。道徳教育が機能していないのではないかと大きくクローズアップされ、教科化が提言された。
 - ・平成27年に小中学校の学習指導要領の一部改訂が行われ、平成30年度からの小学校、平成31年度からの中学校の全面実施に向けて、現在は移行期間中。
 - ・「特別の教科 道徳」として位置づけられ、教科書の導入、評価の実施が義務付けられる。
 - ・完全実施に向けた準備については現在も進めているが、今後は、指導方法の開発や多様な教材分析、学習過程の工夫などを行う必要がある。
 - ・評価は数値で行わず、一人一人のよさを伸ばし、道徳性に関わる成長を促すための適切な評価を行うこととされており、言葉での評価と考えられている。
 - ・市独自の道徳教育として、市ゆかりの偉人にスポットを当てて教材を開発する、きらきら教育と絡めて学校で行った道徳教育を各家庭にもつなげる、ICTを活用して道徳授業を行うなどを考えている。
- 教育長
- ・これからの道徳がどうあるのかが大きな課題となっている。
 - ・ご質問があればお願いしたい。
- 竹中委員
- ・膨大な教材の中で、なぜ「青の洞門」を取り上げたのか。
- 指導主事
- ・よく取り上げられている教材であること、わかりやすく書いてあることから資料とした。
- 教育長
- ・授業の中で生徒とどう関わりながら進めていくのかは難しいことだと思う。
 - ・「主体的・対話的で深い学び」の道徳ができるかどうか。教員一人一人が真剣に考えなければならない。
 - ・これからの道徳についてという方向性をもってご意見をいただきたい。

- 浅井委員
- ・評価について、あまり詳しくすると先生の多忙化がより一層進む気がする。
 - ・評価とは、子どもに対するアドバイスの評価なのか、保護者に対する報告の評価なのか疑問に感じる。
- 指導主事
- 指導主事
- ・子どもがどのように変わったかの伸びを示すものと考えている。
 - ・評価は指導要録に書かれるものである。
 - ・子ども向けか保護者向けか、今後の市の通知表をどうしていくか、道徳をどう評価していくか、この1年の課題であり、保護者にも何らかの形で伝えていかなければならないと考えている。
- 教育長
- 永田委員
- ・その他はいかがか。
 - ・先生が一人一人を見て、文章でこと細かく評価できるのか心配している。
 - ・犯罪の低年齢化、SNS上で色々な動画がアップされ子どもが目にする機会があり、色々な事件に巻き込まれていく中で、命を軽んじる子どもが増えてきた。いじめに対しても、自分がいじめられなければいいと思ってしまう子が多くなっている。
 - ・先生の個人の思いで評価が変わってしまうというのは一番の課題だと思う。
- 指導主事
- ・道徳の授業の中での伸びや、授業後に見られた道徳性に関わる成長など、色々な視点から評価ができるのではないかと考えている。
- 市長
- ・世の中には、人としてやってはいけないことと、ルールがあるからやってはいけないことの2つがある。その違いを子どものうちに教え込んでほしい。
 - ・市として特徴のある道徳教育をやってほしい。
- 浅井委員
- 教育長
- 指導主事
- 教育長
- 竹中委員
- ・中学の道徳の評価は、高校の内申に影響するのか。
 - ・このことについて動向をつかんでいるか。
 - ・内申点にはならない。
 - ・その他、ご感想ご意見をいただきたい。
 - ・いじめから教科化するように変わったこと自体に違和感がある。
 - ・どう生きていったらよいか、よりよく生きるにはどうしたらよいかを、みんなで考えようという問題提起の段階で、一つの授業は成立する。
 - ・誘導するような授業にならないようにすることが大事。
 - ・今までの道徳と教科としての道徳の違いと、道徳の教科化が求めるものが、大津のいじめ事件をなくすことにどうつながっていくのかが分からないのが感想。
- 河合委員
- ・自分の頭で考えて主体的に生きていけるようにする。
 - ・きらきら教育は基本的な生活習慣のベースにあるもの。
 - ・基本的な生活習慣ができている人は、人間関係もうまくいくし、自分の力を発揮することができる。それは 思考力、判断力、表現力を能力として身に付けているからだと思う。
 - ・道徳教育の成果を上げるには、他の教科でもしっかり指導をすることが大事。

- ・深い学びを成立させるために、振り返りの時間を丁寧に扱うことが大事。
- ・市ゆかりの偉人を扱った教材についても単なる感動的な内容ではなく、苦勞して成果を挙げてきたことを資料としてできたら良いと思う。
- ・評価は難しいことをやろうとしているのではなく、授業の中で子どもたちの成長を保護者に返していくと捉えていけばよい。

西村委員

- ・大人として、地域の関わりで子ども達を人間として、最低限の人としてのルールなどを教えていくという形で関わっていければ、ベースができての学校での学びにつながるのではないかと思うので、少しでも貢献していきたい。

教育長

- ・いくつもの課題を抱えているが、大府の道徳として、例えば大府市ゆかりの偉人を取り上げるなどの方向性を事務局で検討しており、校長会等の意見を聞きながら進めていく。今後も、皆様のご意見をいただきたい。

4 その他

次回の日程について

- | | | |
|-----|---------------|-------------------|
| 第2回 | 平成29年9月22日(金) | 午前10時00分～午前12時00分 |
| 第3回 | 平成30年2月26日(月) | 午後2時00分～午後4時00分 |